

▶ 追手門学院大学の教育目的

追手門学院大学では、各学部において、教育目的をそれぞれ次のように定めています。

文学部

文学部に、人文学科を置く。人文学科では、日本文学・日本語・日本史・日本文化に関する学びを通して、高い理解力と思考力を身に付け、専門的知識を活用して思考・行動ができるとともに、創造的に問題解決を図り、新しい文化や時代を創出することができる人材を養成することを目的とする。

国際学部

国際学部に国際学科を置く。国際学科では、英語をコミュニケーションツールとして、複雑化する国際的諸問題をグローバルな視点から把握・理解し、専門的知識やスキルを活用して問題解決を図り、国際社会に貢献することができる人材の養成を目的とする。

心理学部

心理学部に、心理学科を置く。心理学科では、幅広い教養的基礎のうえに、認知・脳科学系心理学、生涯発達・生涯教育系心理学、臨床系心理学、社会・犯罪系心理学、及び情報科学に関する基礎知識を学ばせるとともに、専門領域として以下の内容を重点的に学ばせる。

- (1) 人の心のケアと福祉に関わるメンタルケア
- (2) 人の生涯の発達と教育のサポートに関わるチャイルドサポート
- (3) 企業に就職して種々の仕事に役立てるビジネスリサーチ
- (4) 情報科学の知識やスキル獲得に留まらず、認知科学的視点から人間の特徴についても学び、多様な分野の仕事に役立てる人工知能・認知科学

これらの専門領域としての学びと心理学や情報科学の基礎知識を様々な職業に生かし、自己実現をめざす豊かな人間性を持つ人材の育成を目的とする。

社会学部

社会学部に、社会学科を置く。社会学科では、基礎的教養としての社会学的知見を理解し、常識にとらわれない社会的なものの見方ができ、独創的な企画力をもった、人間性豊かな自立した市民、職業人を育成することを目指すものである。現代社会が直面する重要な問題、課題を実践的に学び、現代の社会と文化のあり方を追求し、新しい人間と社会のあり方を構築することは今日の社会的要請である。このため、社会学の各専門分野にわたり学生に学ばせ、人間社会に対する優しさと厳しさをあわせ持つ健全な人間社会の構成員として活躍する人材の育成を目的とする。

経済学部

経済学部に、経済学科を置く。経済学部では、国際的視野に立ち、幅広い教養とともに経済学の系統的な理解が身に付くよう、段階的に主体的な学習を促す。商都大阪の歴史ある教育環境のもと、創意と工夫、規範と責任をもって社会や地域の担い手となる、独立自彊・社会有為の人材を育成する。

経営学部

経営学部に、経営学科を置く。経営学部では、経営および関連領域に関する知識の獲得と実践的な経験を通じて、企業などの組織に関するさまざまな活動に応用できる能力を身につけた社会的責任感のある学生を養成する。

地域創造学部

地域創造学部に、地域創造学科を置く。地域創造学科では、「地域政策」「地域デザイン」「観光」「食農マネジメント」に関する学修を通じて、幅広い専門知識と教養を身につけ、職業人として、また地域の生活者として、生涯にわたり学び続けるとともに、持続可能な地域・社会を創造することに主体的に参画する地域イノベーション人材を養成する。

- (1) 地域の様々なヒトや団体と連携・協働し、地域・社会に新たな価値を創造することやより豊かな地域・社会を形成すること、持続可能な社会の創造に主体的に参画できる人材。
- (2) 地域政策や地方自治、自治体や中小企業の活動などに関心を持ち、地方公共団体や地元企業など、地域に根付いたフィールドで活躍できる人材。
- (3) インテリアや住居などをはじめとしたハードウェアや都市・空間といった生活環境をデザインすることに関心を持ち、地域の特徴に適した新しいコミュニティやインフラ等を生み出す分野で活躍できる人材。
- (4) 観光政策、観光産業、観光ビジネスなどに関心を持ち、地域密着型観光ビジネスの企画・立案をすることができる人材。
- (5) 6次産業化、商品開発、アグリビジネスなどに関心を持ち、食農資源を活用するための知識を活かした農業・食品産業の発展に寄与できる人材。

用語解説

▶ 追手門学院大学大学院の教育目的

追手門学院大学大学院では、各研究科において、教育目的をそれぞれ次のように定めています。

経営・経済研究科

経営・経済研究科は、経営学・経済学の両分野にわたる基本理論と論理的思考法を広く学び、企業・団体のビジネス分野あるいは公共機関の政策・経営分野における理論と実践事例の分析力及び課題発見・解決力を培い、プロフェッショナル・キャリア開発の基盤となる自立的な研究力を有する高度職業人材を養成することを目的とする。

心理学研究科

心理学研究科は、心理学の専門資格を有し心理職に就き活躍できる高度専門職業人の養成、知識基盤社会を支える高度な心理学の専門的知識を有する教養人の養成、及び将来は研究者となるための人材を養成することを目的とする。

現代社会文化研究科

現代社会文化研究科現代社会学専攻は、現代人の主体性喪失の危機に取り組み、自らの体験を重視した研究スタイルを教育の基本方針とし、文化の多様性を捉え、現代社会の全体像を多角的に研究することを通じて、社会学・人間学の専門的知識・見識をもち、専門的指導能力を備えた人材を養成することを目的とする。

また国際教養学専攻は、国際的通用性のある教養と、英語あるいは日本語のより高い運用力を持ち、研究をとおりて自らを不断に成長させる人材を育成する。日本語及び英語を活用して、グローバル化の実践者として、自他の価値観を相対化できる高度専門職業人を養成することを目的とする。加えて、国際的視野から日本の伝統文化や最先端の文化についてより深く学び、自国文化を積極的に他者に発信することができる高度専門職業人を養成することを目的とする。

WILで革新する追大の新教育

正課・課題を越えた学びへ

グローバル化やデジタル化を背景に社会は目まぐるしく変化し、より複雑化・高度化しています。変化のスピードが加速し、予測が困難な状況下では、行動しながら自ら課題を発見し、その解決に必要な知識や技術・能力を獲得しながら、課題に立ち向かい続ける必要があります。

WIL (Work-Is-Learning) は、主体的に学び、協働して問題解決にあたる追手門学院大学独自の学修スタイル。

行動 (Work) を通じて学修 (Learning) を行い、それを即実践に反映する経験を蓄積することで、予測困難な状況の中でも行動し、学び続ける力を養います。

新教育を実質化させる MATCH

時代のあらゆる変化に適合した学びへ

気候変動やパンデミック、急速に進むデジタル化など、今後の予測不可能な時代の到来に向けて、時代のあらゆる変化に対応し、困難な状況下でも自らが立てたゴールに向かって、その時々に合わせて最適な手法を選択し、乗り越えていく力が求められます。

MATCH (MAXimized-TeaCHing) は、ICT を含めたあらゆる手法を駆使し、教育内容に合わせた (MATCH) 教育効果を最大化する追手門学院大学独自の教育手法です。

教育インフラの整備、教育の枠組みとコンテンツの充実を図り、さらにアセスメントポリシーに基づいた PDCA サイクルを実施。

アセスメント結果をフィードバックしながら、学生にとって常に最適なカリキュラムの提供を目指し、“供給者本位の教育”から“学修者本位の教育”への転換を図ります。